

## 松枯れ対策農薬の空中散布と同時期に発生した健康被害例の検討

永美大志、内藤喜美子、松島松翠、浅沼信治、前島文夫、西垣良夫、夏川周介  
佐久総合病院・健康管理部

### <はじめに>

長野県内で松枯れ対策のための農薬の空中散布が行われた時期に、健康被害を来たした保育園児が多かったとの訴えが、当院に寄せられた。松枯れ対策の農薬の空中散布による健康被害は日本各地でしばしば問題になることがあり、健康被害の事例調査を行った。

### <健康被害 1 >

2008年6月に6歳前半のAさんの住居は、同月中旬に次々と松枯れ対策のスミチオンが空中散布された山林に西または南から囲まれている。Aさんはこの週、夜中に高熱を出し、胸が苦しい息がしにくいと訴え、鼻血も出した。小学校への進学を控え7月上旬に市の発達相談が行われ、Aさんはかなりの多動傾向を示し、相談員から普通学級への進学に慎重な評価を受けてしまった。7月中旬B医院を受診したところ不整脈がみられ、毒物排泄薬などの点滴、処方を受け3週服用した。再びB医院を受診したところ回復していた。9月下旬C大学の発達検査を受けたが、「普通学級への進学は全く問題ない」とのことであった。

### <健康被害 2 >

2008年6月に3歳後半のDさんは、彩色豊かに絵を描く子である。6月下旬、Dさんが住む地域では、松枯れ対策のアセタミプリドの空中散布が行われた。Dさんは7月上旬に、歌を歌い続ける、同じところを走り回り続けるなど、多動傾向がみられ、単色しか用いず塗りつぶすような絵を描いた。同月中旬B医院を受診し、毒物排泄薬などの点滴、処方により、行動が落ち着いてきて、絵にも回復のきざしが見られた。治療を継続し、9月には、彩色豊かに絵を描ける状態に戻っていた。

### <考察>

健康被害を来たした幼児に、毒物の体外排泄を促す薬が処方され、それによって多動、描画能力の低下などの症状が快方に向かったという経過からも、松枯れ対策の空中散布による農薬暴露が原因であることが疑われた。

本研究は、日本農村医学会・特別研究プロジェクト・農薬中毒部会の活動として行われた。